

羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合
I	1 特色ある教育活動を行っていますか。	地域交流や地域貢献を目的とした活動や行事等に参加した生徒の80%以上が満足している。	生徒が主体的に参加ができるよう地域交流事業をPRし、事前指導するとともに、専門学習の深化に結び付ける。	A	A	A	地域との交流・貢献活動に取り組み、その活動に満足していると回答された方が平均82%に達し、特色ある学校づくりに努めていると判断できます。しかし、生徒の中には取り組めていないものが3%ほどあり、まだ地域交流事業のPRや事前指導を行う必要があると思われる。	特別支援学校や地域イベントでの積極的な取り組みに感謝している。今後も多方面にわたって農業高校の強みを生かした活動に取り組んでいただきたい。
II	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 授業がわかりやすいと80%以上の生徒が答えている。	① 指導と評価の一体化につなげられるよう目標と振り返りを明確化し、ICT活用を中心とした適切なツールを取り入れた指導方法や教材の工夫等、授業改善に努める。	A	A	A	授業者としてわかりやすい授業を心がけて実践することで、生徒や保護者にとっても満足度の高い結果となった。ICTだけでなく、あらゆるツールや手法を適切に活用する授業を展開できるようにしていきたい。特に専門的な学習を発展させる際に、生徒の端末や各種ソフトの利用スキルを高めていきたい。	デジタルを活用した授業については、得意な方や不得意な方で違ってくるのではないかと。どのように活用していくかを紙の良さとを比較、分析していくのではないかと考える。
		② 資格取得にむけた指導に70%以上の生徒が満足している。	② 専門的学習における資格取得の位置づけを理解し、進路実現にむけた重要性をふまえて取り組めるよう、指導体制を構築し、家庭と連携した指導に取り組む。	A	A	A	現在取り組んでいる資格については、数値は目標値を上回り、意見要望においても、満足度は高いものであった。アンケートから資格取得に対して生徒及び保護者の期待は大きい。専門的学習の深化となる検定への取り組みを重視し、よりよい結果へ結びつけるために、指導に十分な準備期間を取っていききたい。そのための早期の計画や予定周知が課題となっている。	資格取得や各種大会での発表など、生徒にとって大きな自信につながる成果を残している。発表について着実に力をつけていると感じるので、職員にもっと自信をもって取り組んでいただきたい。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	授業を中心に、学習に対して意欲的に取り組んでいると自己評価している生徒が、70%以上である。	振り返りから自己課題を確認できるよう、目標や評価についての解説に重点をおき、主体的に学習に取り組めるよう、指導体制の充実を図る。	C	A	B	教職員側として学習に対して前向きに取り組むと感じる生徒が半数という結果であった。保護者および生徒の評価が高く、大きな差がみられた。教職員の考える意欲的な取り組み目標を再考することだけでなく、より高い目標へ達することができるよう、主体的な学習への取り組みに対する指導の工夫が課題と感じる。	
III	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	学校生活全般における身だしなみの改善・挨拶指導が十分に行われていると評価する生徒が70%以上である。	職員間で連携をとり、HR・授業中における指導を充実させる。登校時指導や下校指導、授業、HR等で身だしなみ・挨拶指導を継続的に行う。	B	A	A	学校生活全般における身だしなみの改善については、生徒と保護者の結果はそれぞれ93%、90%と高い評価が出ている。しかし、職員の結果は72%と若干低くなっており、指導の徹底や校則に従った指導のしやすさなどを考えていく必要があると感じた。	生徒も楽しく、行事や授業も充実していることで取り組みに自信を持ってほしい。ヘルメットの着用など、交通マナーなどは厳守していくよう、苦慮しているとは思いますが、粘り強く指導にあたってほしい。身だしなみについては、時代に合った取り組みとして対応して欲しい。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	① 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に複数回実施している。	① 職員会議・学年会議等の議題として情報交換を実施し、全教職員間で情報を共有し、組織的な指導を行う。	A	-	A	生徒の情報交換については運営委員会、職員会議、朝会、各学年、分掌での会議において情報共有が行われている。必要な生徒情報を得られていると回答する職員が83%となっているので維持継続し、組織的な指導に結びつけていきたい。	コロナから脱し、国際交流活動なども再開された。様々なコミュニケーションの機会を活用し、適切な人間関係の構築に向かう力をつけていく指導に頑張ってもらいたい。
	② いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応に努めていると評価する生徒が80%以上である	② 生徒及び保護者にいじめ防止対策について情報発信する。生徒観察に努め、未然防止・早期の組織的対応を徹底する。いじめ認知内容についてはすみやかに委員会等を開き、職員間で共有し、組織的に対応する。	B	A	B	いじめの未然防止、早期発見・早期対応については、生徒と保護者の結果はそれぞれ89%、90%と高い結果を得ることができた。アンケートや面談等で得られた小さな情報に対し、組織的に丁寧で迅速な対応ができたためだと考えられる。また、スクールカウンセラーを積極的に活用したり、学校内だけでなくとどまらず、外部機関とも密に連携しながら対応しているため、今後も継続していきたい。しかし、「いいえ」という回答が11%あり、生徒が抱えている悩みを余すことなく拾えるよう、常にブラッシュアップし続けていく必要があると感じている。		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻率が0.8%以下である。	① HRや授業の開始時間を守れるよう指導し、時間を守ることを大切さを伝え続ける。保護者と連絡を取り合い、連携して指導する。	C	C	C	12月末までの遅刻率は全体で1.3%であり、4月から遅刻が増加傾向にある。遅刻については、学校の指導だけでなく、家庭と密に連携して指導を継続していく必要がある。欠席率については全体で3.0%と高く、体調管理を含めた日常指導を怠らずに改善を目標とする。ただ、保護者生徒共に遅刻や欠席をしないよう意識しているという回答は90%以上となっているので、遅刻や欠席をする背景にはどんな原因があるのかに着目して指導する必要がある。また、悩み改善に向けたスクールカウンセラーとの連携を進めており、利用率は高い状況にある。	遅刻や欠席については、家庭でも指導に苦慮していると考え。目指す方向は一緒であると考えるので、連携を強化しながら、その事由に寄り添った指導を継続して欲しい。	
	② 欠席率が1.5%以下である。	② 本人・保護者との連絡を密にし、必要に応じて面談や家庭訪問を実施する。また、進路を踏まえ、欠席数を増やさないことの重要性を理解させる。長期欠席者に対しては、カウンセラー等とも連携し生徒理解と原因把握に努める。	D	D	D			
IV	7 計画的な指導を行っていますか。	学校から提供される進路情報や進路関係行事等が進路を考える上で役に立っていると評価する生徒が80%以上である。	ポータルフォリオ・手帳等を使って進路行事の事前・事後指導を行い、進路学習の充実を図る。また、進路相談会やオープンキャンパスなどの情報提供を充実させ、生徒の参加を促進する。	A	A	A	生徒が進路を考えるきっかけとなるのが、進路ガイダンスや進路相談会などへの参加による進路情報の獲得であり、今年度はそうした進路行事への積極的な参加が各学年で見受けられ、概ね目標は達成された(アンケート評価:保護者84%・生徒87%)。今後も進路行事への積極的な参加を継続して促していきたい。	地元で活躍する卒業生を見て、本当に嬉しく感じている。有機農業やAIの活用など、新しい農業の魅力をより発信していただき、地域の活性化につなげて欲しい。進学においても農業系への進路に今後期待したい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 自己の生き方と将来の職業について考えている生徒が75%以上である。	① 学習活動・特別活動・学校行事を通して、全教職員間で生徒に自己の生き方と将来の職業について考えさせる指導を行う。	B	C	B	「自分の生き方や将来の職業」について考えていない生徒も一定数おり(アンケート評価:保護者69%・生徒78%)、生徒と保護者の間の情報共有も含めて、さらにキャリア教育の充実を図る必要がある。	農業の分野は広く、各コースで様々なことを学んでいる。それらをどういった形でよいのかを活かし、進路につなげて欲しい。先生方の苦労もあると思うが、家庭とも連携し、よりよい進路実現へ生徒を支えて欲しい。
	② 目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	② 3年生の進路に関する情報を全教職員間で共有し、学校全体で3年生に対する個別的なキャリアカウンセリングを進める。	C	C	C	3年生の進路実現では、生徒と保護者の間で大きな開きが見られる(アンケート評価:保護者95%・生徒86%)。就職・進学試験での不合格、進学から就職への変更、未定となった経緯も含めて、生徒が第一志望としていた進路先が変更されたことなどにより、生徒の評価が低くなったと考えられる。生徒が第一志望への合格ができるように今後もキャリアカウンセリングや就職・進学対策を充実させていきたい。		
V	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	「学校の様子がよくわかる」と評価する保護者が75%以上である。	WEBページやSNS、連絡メール、クラスルーム等を活用し、学校の様子がわかりやすく保護者及び地域に発信できるように工夫や充実を図る。	A	B	B	学校の様子がよくわかると評価する保護者が74%で、数値目標には届かなかった。インスタグラムやX(旧ツイッター)WEBページのアップの速度を速める工夫も行ってきたが、保護者向けには新しい連絡メールの機能を活用するとともに、紙面での広報も見直し、より学校の様子がわかるような情報発信となるよう、工夫したい。	SNSだけでなく、新聞や広報誌などでも見かけることが多く、学校の活動を広く知ることができる。継続して欲しい。
VI	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを活用した授業及び特別活動に生徒の70%以上が満足している。	ICT機器及びソフトウェアを効果的に活用し、デジタルコンテンツを使った成果を実感できるような教育活動の工夫や充実を図る。	C	A	B	職員としての満足度が低い一方、保護者や生徒は授業やHRにおけるICTの活用について一定の評価があった。教職員としてICTの活用不足の自己評価となったのは、多くの情報が入ってくることに、自身の教材研究に落とし込めていないためと分析する。授業の特性を踏まえたコンテンツの見極めにつながるよう、授業研究などを強化していきたい。	デジタルでのアンケートなど、手軽であるが故に失念してしまうことも多い。業務の効率化により、生徒との時間を増やすためにもより一層の工夫をお願いしたい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	職員連絡及び会議資料、採点等のデジタル化を行い、職員の70%以上が業務改善につながったと認識している。	デジタル採点、学校支援システム、校務支援システム、Googleネットワークサービス等を適切に活用し、適切なツールを利用しやすい体制を整え、時間短縮と業務の効率化を図る。	B	-	B	業務改善においては、学習および校務支援システムの導入と定着もあり、一定の成果があった。ソフトの更新に追いついていくことも含め、デジタル化＝業務改善ではなく、効率化できるところの見極めと多忙感の根源をつかめるよう、声を聴いていきたい。	デジタル利用の分野を精選していくなど、視点を変えた試みなどを通じてよりよい取り組みに発展させてほしい。